**第３回　泉佐野丘陵地緑地 運営審議会**

日時：平成27年10月1日（木）14:00～17:00

場所：泉佐野丘陵緑地パークセンター

出席委員（敬称略）

大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　増田昇（委員長）

大阪府立大学大学院　生命環境科学研究科　教授　下村泰彦

うみべの森を育てる会　代表　西台幸子

大輪会事務局　大西弘薫

大阪市立大学大学院環境都市工学科准教授　嘉名光市

泉佐野市都市整備部　部長　真瀬三智広

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　代表　松井弘

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　事務局長　大家清信

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　副代表　山本喬

◆欠席

元大阪府立大学大学院　教授　前中久行

大阪ガス株式会社　　特任研究員　弘本由香里

◆傍聴者

泉佐野丘陵緑地パーククラブ　2名

◆概要

1. 現地見学　　　　 14:00～

2.パークセンターにて 15:00〜

　協議案件　4件　　 15:10〜16:15

①　持込み型プログラムについて

　　②　企業の森について

　　③　谷口池西側エリアについて

　　④　水辺の広場周辺水路修景について

　　⑤　パークセンター北側植栽について

　報告案件 4件　 16:15〜17:00

1. プログラム活動報告（7月～8月）
2. パークレンジャー養成講座について
3. 平成27年度予定工事について

　　④　その他

3. 閉会　　　　　　17：00

＜**協議案件1：持込み型プログラムについて**＞

事務局より持込み型プログラムについて説明。

**増田会長**

・募集チラシについては、食品を扱うもの、ものづくり、火器を使用するものなど、プログラムをカテゴリー別にすると分かりやすい。

・各プログラム代表者が、例えば火器の使用や衛生管理などについて消防から承認を得ることは難しいと思われる。事前に大阪府と協議した上で役割分担するとよい。

**大家委員**

・食品衛生の保険とは、どのようなものか。

**事務局**

・レクリエーション保険は、細菌を原因とする事故に対応していないため、食品衛生保険に入るようにしている。流しそうめんイベントの時は加入した。

**増田会長**

・チラシの「営利目的とせず、一般参加が可能なこと」という表現は改めたほうがよい。

**下村委員**

・「営利目的としないこと。一般参加が可能なこと。」と、二つの文章を２行に分けるべきである。

・今のチラシでは、事務局が集客などの支援をすることが伝わらない。

**増田会長**

・チラシに、「プログラム実施に際して、備品・水道電気・広報を含め、極力サポートを行なう」という内容を明記するとよい。

**嘉名委員**

・企画者が単独でプログラムをするだけでなく、大きなイベントにも出展していただくようにするとよい。そうすれば集客のサポートにもつながり、他団体との連携も生まれる。

**増田会長**

・パーククラブや他団体の活動日程を提示し、コラボレーションを促進する文章も、募集か受付の下の欄に挿入した方が良い。チラシはすぐに修正し、募集を開始すること。

＜**協議案件2：企業の森について**＞

事務局より企業の森について説明。

**大西委員**

・まず体験しなければ、将来どのような森にしていきたいかというイメージが沸かない。現地での活動体験を通じて、必要な活動を自分たちで考えることが重要である。

**増田会長**

・プロモーションペーパーに記載されている序幕と第1幕を入れ替えるとよい。序幕を「森のつくり方を体験しよう」とし、第1幕を「将来像を考えよう」とする。

・現在は仕組みを構築する段階であり、まずは全てのステップを順に踏んだ実績を作る必要である。その後、途中のステップから参加可能となる仕組みも検討するとよい。

・ワークショップは、ファシリテーターのもとで行うことを明記するとよい。

**下村委員**

・「企業の森」という名前は、保護された森林のイメージを喚起する可能性がある。「企業の森プログラム」や「企業の森プロジェクト」という名称の方が今回の主旨に適している。

**増田会長**

・「みんなで参加しよう、企業の森プロジェクト」など、皆でつくる森であるということが伝わることが重要である。

**松井委員**

・企業の森でプログラムが開催される場合、一般参加のあるイベントと同様に行うのか。それとも、それとは別に個別で開催するのか。また、どの程度の規模を想定しているのか。

**大西委員**

・タケノコ掘りなどは人気が出ることが予想されるため、例えばりそな銀行関係者は参加者数を制限するなど、他企業の方々にも足を運んでもらえるように配慮する。

・竹切りを行った人だけが流しそうめんに参加できるといった、活動の流れを考えることも重要である。

**増田会長**

・参加者層に偏りがないように、汗をかくイベントと、楽しむイベントを交互に行なうとよい。汗をかいた後に楽しむイベントがあるというように、プログラムの連続が重要である。

**嘉名委員**

・企業の森活動が、CSRや環境保護等、どのような効果に繋がるのかをプロモーションペーパー上で明確にするとよい。

**事務局**

・12月に実施するプログラムを10月中に固め、11月初旬より募集開始できるよう準備する。

＜**協議案件3：谷口池西側エリアについて**＞

事務局より谷口池西側エリアゾーニングについて説明。

**増田会長**

・天神川流域については、ホタルの生息状況を調査した後で整備を行うべきである。現段階以上の整備は、一年間程度の調査を終えてから行うべきである。調査方法を学習することで、活動に活かすこともできる。

・ヒメホタルとゲンジホタル、ヘイケホタルの3種が生息することが理想である。

**下村委員**

・谷口池西側は他のエリアと異なり、生態系を保存するエリアといえる。ゾーニングは「レクリエーション」というキーワードを避けながら行い、できるだけ手を加えない方針で検討するとよい。環境保護も公園整備の1つである。

・急激な環境変化はホタルの生息に影響を与えるため、整備を行う場合は慎重に活動計画を組む必要がある。

**西台委員**

・自然の景観を残すため、あえて柵を作らないという考え方もできる。ホタルやササユリのイベントを行なう前に少し整備をするという形でもよい。

＜**協議案件4：水辺の広場修景について**＞

事務局より水辺の広場の修景について説明。

**増田会長**

・土嚢を積み、植生回復を待つこととする。水辺の広場の整備と同時並行で行うことは可能か。

**事務局**

・予算を検討する必要があるが、同時並行で行う予定である。

＜**協議案件5：パークセンター北側植栽について**＞

事務局よりパークセンター北側植栽について説明。

**増田会長**

・ソーラーパネルについては、むき出しにならないように設置するとよい。またパークセンターから工事が丸見えにならないよう、パネルの設置時期と植栽の時期を調整していただきたい。

**事務局**

・工事については、開始が2〜3か月ずれており、完成は来年度に入る可能性が高い。

＜**報告案件1：プログラム活動報告（7月～8月）**＞

山本委員より7～8月に行われたパーククラブのプログラムについて報告。

**大家委員**

・向井池周遊路は今後どのように整備を進めていくべきか。

・９月で一応通れるようになった、パーククラブとしては来園者に次年度の早い時期に開放したい。

**増田会長**

・向井池周遊路は、当面はイベント時などに限定的に開放することとなるだろう。まだ薄暗いため竹の伐採が必要であり、階段を作らなければならない斜面など、やるべきことが多く残っている。完全に周遊できるようになるには2〜3年かかるかもしれない。

・必要な園路と不要な園路を整理する必要がある。向井池東側は広葉樹のあるエリアであることなど、植生も踏まえた広場の活用方法を検討した上で、園路整備を行う必要がある。

・活動報告書は簡略化をして、パーククラブが自立的に作成できるようになる方が良い。コーディネーターの問題は今後も継続的に議論していく課題とする。

**増田会長**

・公園の愛称は、積極的に広めていくというよりは、パンフレットなどの広報物に掲載することで、徐々に浸透させていくとよい。

＜**報告案件２：パークレンジャー養成講座について＞**

事務局よりパークレンジャー養成講座について報告。

＜**報告案件３：平成27 年度予定工事について＞**

事務局より平成27年度の予定工事について説明。

**増田会長**

・パークセンター北側斜面の植栽に利用する樹木は、根腐れが起きないように、大きめの鉢で生育を行うと良い。

・工事予定に合わせて、パーククラブの活動計画も審議会で議論できるよう準備する。

＜**報告案件４：その他＞**

①事務局より秋の郷遊びイベントについて説明。

**増田会長**

・今後は、夏休みの時期に小学生の宿題教室といったイベントも検討するとよい。

②松井委員より神奈川県の清流高校の研修旅行について説明。

**増田会長**

・体験だけでなく、日根荘の歴史について学べるプログラムもあるとよい。

**真瀬委員**

・パーククラブが普段行っている活動に参加することで、ボランティアとしての活動をよく理解できる。向井池周遊路の整備に参加してみるのもよいだろう。

以上